

きく ち こう すけ  
菊地康介さん

修士課程  
教育コミュニケーションコース2年

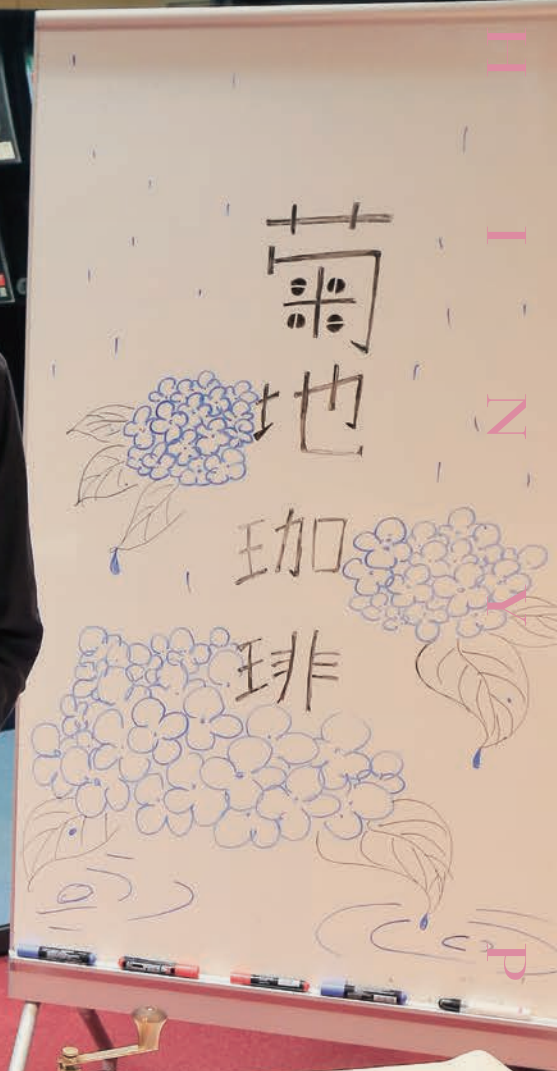
平成5(1993)年、東京生まれ。フリースクール、信州大学教育学部を経て、教育コミュニケーションについて学びを深めたいと27(2015)年4月に兵教大に入学。学業の傍ら大学附属図書館でアルバイトをしており、同館の広報誌「LISTEN」VOL.10にコーヒーにまつわるコラムを寄稿している。



◎課外プロジェクトとは  
学生の自主的な取り組みに対し活動資金を支援する学内制度。平成27(2015)年度は菊地さんの「カケル×プロジェクト」など5件を採択した。

キラリな人

学内での  
新しい出会いや  
つながりを  
楽しんでいきます



**親** から譲ってもらったという年代物のミルをリズムミカルに回して豆をひき、ドリッパーにセットしたらゆっくりと湯を注ぐ。こだわりの道具でコーヒーを淹れる一連の作業は、すっかり手慣れたものだ。

教育コミュニケーションコース2年の菊地康介さんは、昨年度の課外プロジェクトに採択された「カケル×プロジェクト」の発案者として、学内を面白くする活動を展開してきた。ある時はキャンパス内でゲリラ的にコーヒーを配り、またある時は図書館でドリップコーヒーの淹れ方についてのワークショップを開催する。「最初からコーヒーをテーマにしたかったわけではありません」と本人は否定するが、イベント時に提供される彼のコーヒーは評判を呼び、いつしか代名詞的存在に。「学内を歩いていると、『あ、コーヒーの人だ』と言われることもありませう」と笑う。

本×コーヒー、音楽×学生といった具合に、何かと何かを掛け合わせることで面白いものを生み出し、学内を楽しくしようという思いから1人で始めたプロジェクト。「入学した時、あまりにも大学の周りに何もなかったことに驚きました。寮生なので行動範囲も狭いですし、『じゃあ、学内で遊ぼう』と思って」と動機を話す。

活動するうちに賛同する仲間が増え、時には「一緒にイベントをやらう」と誘われることも。最近では中庭で演奏を披露する学生の姿が見られるなど、当初目指した、学内でのいろんな人がそれぞれの趣味や特技を生かして何かをやっている状況になりつつあるという。これからも、移動式の映画上映会に写真展、草木染め教室と、在学中にやってみたいことはまだまだ尽きない。

10代の大半をフリースクールで過ごしたという自らの経験も踏まえ、大学院ではフリースクールを中心とした研究を行っている。修了後はすぐに教育に携わるのではなく、「農業を中心にシンプルな暮らしを実践したり、海外を回ってニュースなどで気になったことを自分の目で確かめたい」と話す。知的好奇心×経験、さらに大学院での学びをカケルことで、学校の枠にとどまらない教育の現場で活躍したいと夢を描く。